



みなさんからハッシュタグ **#タノシカタノシ** を付けて
投稿していただいた写真を紹介します!

moyarengo



#いきいきランド交野 #かざぐるま

ryoteen28



#竹林の道 #トレイルランニング

ishikoroen



#ほしだ園地 #かべのぼり

Hosinoaman



#はっぴーぱれんたいん #星のあまん

塗り絵おひめちゃん



ホームページでA4サイズ版を公開しています。完成した塗り絵を送っていただくと、ホームページへの掲載や、イベント等で掲示することがあります。

【申込】〒576-8501 情報マーケティング課広報担当
<https://www.city.katano.osaka.jp/docs/2019030600058/>



交野に残る 家康の足跡



今、徳川家康が世間の注目を集めています。
織田信長、豊臣秀吉に次いで天下人となり、260年以上も続いた江戸幕府を開いた人物です。
大阪では、3人の天下人のうち豊臣秀吉(太閤さん)の人気の高いと言われますが、交野には徳川家康との意外なつながりがあります。
この一年、周辺の動向もふまえながら紹介します。

家康の危機「神君伊賀越え」

交野と家康の最初の接点は、「神君(江戸時代に神格化された家康のこと)伊賀越え」にあります。天正10年(1582)の旧暦6月2日、織田信長が明智光秀の謀反により命を落とした「本能寺の変」が起きました。この時、信長と同盟関係にあった家康は堺に滞在しており、小数の側近と

本拠の岡崎まで帰らなければならなくなりました。敵がどこにいるかもわからない危機の中、家康は死も覚悟しました。それでも、家臣に説得され家康は逃走の道を選び、伊賀・甲賀で忍びの助けも得て帰還を果たしました。これが「神君伊賀越え」です。

伊賀越えにおける交野

伊賀越えの経路は現在も議論が続いていますが、交野近郊の状況は2013年刊行された『枚方の歴史』で整理されています。家康の側近が比較的近い年代に記した「石川忠総留書」によると、本能寺の変の翌日、何も知らずに堺を出た家康は、現在の平野、阿倍野を通過し飯盛山(四條畷市・大東市)の麓で信長の死を知ります。そして、この日のうちに「山ノねキ(東高野街道または山根街道)、ホタニ(枚方市穂谷)、尊念寺(同尊延寺)、草地(京田辺市草内)」を経て、宇治田原で宿泊しました。飯盛付近から東高野街道を経て穂谷へ至るため、一行が交野を通過したことは明らかです。



家康が交野を通過できた背景

一行は、光秀が抑えている可能性の高かった交通の要衝「洞が峠」を回避し、少しでも安全なルートを選び進んだことがうかがえます。また、穂谷など、交通の要衝ではない土地を経由していることから、地元の道に通じた人間が道案内したものとみられます。このとき家康は、津田郷の織田恩顧の勢力を頼ったとする後世の史料もあります。

当時の交野を治めていた安見氏も、居城の私部城が織田軍の助けで落城の危機を免れたこともあり、信長に恩義がありました。以前に信長が安見氏の居所へ休息に訪れたこともあり、安見氏は信長から一定の信頼を得ていました。家康が交野を逃走経路とした背景には、織田とのつながりがある安見氏の存在も影響したかもしれません。

また、星田には大阪では珍しい伊賀越えに関する伝承があり、次号でご紹介します。

